

本計画書を参考に各隊で詳細計画を立案して下さい。
必要ならば 1/25000 の地形図をご用意下さい。

『歴史探訪ハイク』 計画書

実施日時

平成17年8月9日(火)

吉川野営場バス停集合	午前8時20分
出発	午前8時40分
桜淵公園 バス停到着	午前9時10分
桜淵公園 バス停集合	午後2時
出発	午後2時20分
吉川野営場バス停到着	午後3時

実施場所

新城市設楽原歴史資料館とその周辺

開館時間→AM9～PM5:30 休館日→毎週月曜日・年末年始

入場料→・一般:200円(団体:150円)・小中学生(小4以上):100円(団体:50円)

目的

新城市設楽原歴史資料館を訪問し、新城の歴史と文化にふれる。

目標

- 1)新城市の町並の歴史、文化にふれる。
- 2)長篠・設楽原の戦い、火縄銃、岩瀬忠震等の歴史について資料館を訪問して調査する。
- 3)市民プールでの水浴をする。
- 4)進級科目、ターゲットバッジを習得する。

進級科目	ハイキング 1-1、1-4、1-5
ターゲットバッジ	A5、B2、B3、C1

受入人数

114名

往復の交通

桜淵公園までは、バス停を設置してバスを運行する。

参考コース、距離、時間

- 1)桜淵公園バス停～設楽原歴史資料館～市民プール～桜淵公園バス停
(桜淵公園バス停～設楽原歴史資料館 片道約5.00km 徒歩約1時間)

服装、持ち物

ハイクに適した服装、水着、ゴーグル、水浴キャップ、水浴後の着替え、帽子、雨具、筆記具、個人救急品、タオル、ハンカチ、ティッシュ、昼食、お茶、行動食、健康管理カード(健康保険証のコピー)、緊急連絡用のお金、その他ハイクに必要とされる物。

GHQが用意する物

移動用バス、新城市設楽原歴史資料館入場料、市民プール入場券

安全対策

- 参加各班(隊)に指導者を同行させる。
- 暑さ(熱中症等)に注意し水分を取る、交通安全対策を各参加隊で十分検討する。
- 水泳時の安全対策を確認しておく。

注意事項

- 緊急連絡先の(隊長携帯電話、SHQ携帯電話、吉川野営場)指示をする。
- 歴史資料館の展示物等に十分注意し、他の人に迷惑を掛けないよう観覧する。
- 水浴時のマナーをしっかりと守る。(スカウトらしい行動)

選択プロ 歴史探訪ハイク

新城市設楽原歴史資料館

設楽原からのメッセージ

奥三河の山なみがゆるやかな丘陵地帯に変わり豊川の下流に向かって平野がはじまるところ……ここが設楽原です。

雁峰山の山すそに続くこのあたりは古く信州往還が通り、この地域の交通の分岐点でしたが、それは奇しくも戦国の時代を分ける日本歴史の分岐点でもありました。

四世紀前の一五七五年、この地で行われた鉄砲の戦い『長篠・設楽原の戦い』で、当時最強といわれた武田の騎馬軍団は織田・徳川連合軍の馬防柵を軸とした新戦法に敗れました。これを境に戦国歴史の歯車がその流れを大きく変えていきました。

そして、三百年を経て、設楽原は『岩瀬忠震』という一人の人物を通して再び歴史の転換という大きな出来事にかかわります。幕末の開国条約交渉にあたりながら、設楽家三男の忠震は黒船の時代をひたすらに駆け抜けて行きました。

あれから百数十年、設楽原は次の時代へのメッセージを、この資料館に託します。

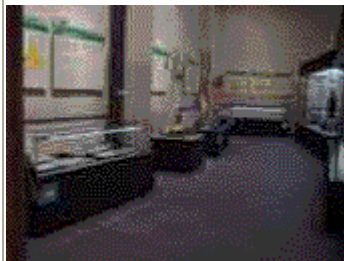
わたしたちの『きのう』を見つめるために、わたしたちの『あした』を考えるために。

歴史資料館案内

長篠の戦いの決戦場となった設楽原には新城市設楽原歴史資料館があります。
この資料館は、長篠・設楽原の戦い、火縄銃、岩瀬忠震を紹介するため、平成8年4月にオープンしました。
それでは資料館をご案内いたします。



瓦が敷かれた通路を歩いて建物に入っていきます。
建物に入るとすぐ受付があります。そこで入場券を求め、展示室へ向かいます。
展示室への入口に「設楽原からのメッセージ」が掲げられています。
いよいよ、展示室です。展示室に入るとすぐに展示室内のマップがあります。
大きく「長篠・設楽原の戦い」「火縄銃」「岩瀬忠震」「火おんどり」の4つのコーナーに分かれているのが分かります。



入口に一番近い「長篠・設楽原の戦い」コーナーから見ていきます。
まず、はじめに「信玄砲」が展示してあります。この「信玄砲」は野田城主であった菅沼定盈が武田信玄を狙撃したという伝説が残されている火縄銃です。
その前を通り過ぎ、壁に掲げられているパネルに目を向けると戦いの流れが時を追って記されています。
このパネルをまとめたものが受付で『設楽原と火縄銃』(300円)という小冊子になって販売されています。
大きな展示ケースをのぞき込むと小さな白い玉が5つほど展示してあります。
これが、戦いで実際に使われた鉄砲玉です。思いの外、玉は小さく、鉛でできており、真っ白になっています。



次に「火縄銃」コーナーです。
まずその数に圧倒されます。火縄銃の展示してあるだけで約80挺。
しかも、似たような火縄銃ばかりではなく、大きいものから小さいのまで、地味なものから装飾に富んだ火縄銃まで、とてもバラエティーに富んでいます。
また、火縄銃の歴史が分かりやすいように古い型式から新しい型式へと、さらに作られた産地による分類など見る人によって色々な見方ができます。
また、パネルには火縄銃のことが何でもわかるように記されていて、これも『設楽原と火縄銃』のなかにまとめられています。展示してある資料の中でも圧巻は長さが3m以上もある鉄砲です。



次に幕末の外交官「岩瀬忠震」コーナーです。
鎖国下にあった日本を開国へと導いた岩瀬忠震について紹介しています。
忠震の業績をパネルで紹介し、さらに忠震の遺した書画などからその人柄を偲ぶことができます。
パネルは小冊子『岩瀬忠震』(300円)にまとめられています。



最後に「火おんどり」コーナーです。
長篠・設楽原の戦いで亡くなった戦没者を供養するために毎年8月15日の夜大きなたいまつを焚き、それを振り回すという供養祭です。
戦いの直後から毎年欠かさず行われてきた火の祭典です。

選択プロ 歴史探訪ハイク案内図 (参考距離と参考時間)



桜淵公園～歴史資料館	距離	5.00km	徒歩	60分	自動車	7分
歴史資料館～市民プール	距離	5.00km	徒歩	60分	自動車	7分